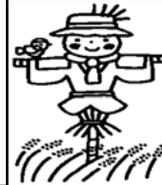


国公女性協News

2009. 10. 15
NO. 240

国公労連女性協議会
TEL 03-3502-6363
joseikyuu@kokko.or.jp



第35回 定期総会開催!

国公労連女性協は、9月26日(土)～27日(日)の両日、都内で第35回定期総会を開催しました。総会には15単組、2ブロック12県国公から延べ74名の参加があり、議長に小池千代美さん(全司法)、濱野五月さん(全労働)を選出し、08年度の経過と総括及び09年度運動方針議論を行いました。

1日目の会議の冒頭、宮垣国公労連委員長からご挨拶をいただきました。宮垣委員長は10/24から全国で公開される映画「沈まぬ太陽」の話から、主人



公のモデルとなった方の言葉を引用して、「アフリカにいるムーの群れは、敵に襲われたときバラバラに逃げ、仲間が捕まり食べられていると、今回は自分でなくてよかったと思っている。しかしバッファローの群れは、敵に対して仲間と一緒に立ち向かい、弱い仲間やけがをした仲間をかばい合いながら生活をしている。私達も厳しい公務員攻撃の中で、バッファローのような運動を行っていきましょう」と力強く話されました。

討論では、二日間にわたり延べ26本の発言がありました。

「人事院交渉に非常勤職員も参加し、雇い止めの問題などを追及した」

(香川県国公)「人事院地方事務局交渉を実施した。女性協のない県や未結集の単組からも参加があり、特に婦

人科検診について交渉した。その前提として、ブロック内で婦人科検診の有無を調査した」(東北ブロック)など、人事院の地方事務局にも女性の要求で交渉を行っている報告がありました。また、各単組においても「若い女性が辞めざるを得ない状況を踏まえ、誰もが安心してはたらく続けられる職場をめざし、女性の登用や制度が使える職場環境を求め当局交渉を行っている」(全港建)、「昇格交渉でポジティブアクションを求めて当局を追及した」(全国税)など報告がありました。

「地方分権で職場がどうなるか不安、女性部として何ができるか」(全建労)、「日本年金機構移行に向け着々と準備が進んでいる。職場では、1月からの雇用が未定の人もいて、決定した人も喜んではいられない状況。育休明けで復帰した人のフォローができず辞めていくケースも出ている」(全厚生)単組状況も報告されました。

また、「今年も11/12に組織拡大の統一行動を行う。」要求

をつかんで離さず実現へ」(全医労)、「国公女性交流集會に連動して単組の女性部會議を開催していたが、毎年開催する必要があるため、全国大会にあわせて開催した」(全通信)、「共同のとりくみを大切にして、非常勤職員や国公以外からも参加し女性交流集會を開催した。」(静岡県国公)、「女性職員が少なく、活動が女性集會しかできていない。要求があるのにまとめ切れない。」(全気象)「女性組織の活動形態を見直ししている」(全建労・全運輸)など組織にかかわる報告も多くされました。

今総会には、全建労の代議員として初めて非常勤職員の参加があり、「不安定な雇用条件の中で、不安になりながら仕事をしている。組合としても研修会や学習会を行ってほしい」旨の発言がありました。

二日目の會議では、冒頭全労連女性部常任委員の小澤晴美さんから、国連女性差別撤廃委員会(SEDAW)の傍聴報告をいただきました。

傍聴報告では、そもそも女性差別撤廃条約とはどういう内容のものかから始まり、今回の審



議状況や傍聴する中で小澤さんが感じたことを含めてDVDも使いながら「SEDAWの委員はNGOの意見をよく聞き入れ、私たちの切実な声をあげていくことの大切さを痛感した。これからは、女性差別撤廃条約を武器に、働きやすい環境や働き続けることができるルール作りをしていきましょう」とわかりやすく話していただきました。

二日間の討議で、両立支援制度の拡充が図られているにもかかわらず、厳しい職場環境で働き続けることが難しくなっている状況の中、様々な人と連帯し、総対話MAPに女性も積極的に参加することなどを確認して、08年度の経過と総括及び09年度運動方針を満場一致で決定しました。その後、09年度女性協役員(別掲)を満票で信任し、総会決議・総会宣言・スローガンを採択し総会を終了しました。

09年度女性協役員

今年一年、以下の9名体制で行います。
どうぞよろしくお祈りします。

議長	阿部 春枝	全運輸	再
副議長	三村 宏子	全建労	//
//	濱野 五月	全労働	新
事務局長	橋本恵美子	全法務	再
事務局次長	森 仁美	全医労	//
常任委員	市川 知子	全法務	//
//	小出千鶴子	全厚生	//
//	小池千代美	全司法	新
//	手塚美和子	全運輸	//



第54回はたらく女性 の中央集催会in神戸、開催される

10月3.4日の両日、兵庫県・神戸市内で第54回はたらく女性の中央集催会が開催されました。全国から、延べ1100人が参加し、学び、交流し、はたらく女性の共同を広げていくことを確認しました。

1日目は神戸勤労会館で、6つの分科会「女性差別撤廃条約と日本の男女平等—はたらく女性の共同の前進を（婦団連会長堀江ゆりさん）」、「人間らしくいきいきと働き続けたい—仕事と子育て、生活の両立のために（神戸女学院大学教授石川康宏さん）」、「港から見る食の安全と食糧自給率（兵庫食健連事務局長柳澤尚さん）」、「はた

らく女性の心とからだ—女性の健康は社会の健康（産業カウンセラー大槻久美子さん）」、「憲法9条を持つ私たちの国際貢献（大阪中央法律事務所梅田章二さん）」、「破綻した構造改革—消費税増税で、安心して生きられる社会になるの？（神戸大学教授二宮厚美さん）」と見学分科会「非核神戸港方式を学ぶ（兵庫県原水協事務局長梶本修二さん）」を行いました。8月の総選挙後の政権交代の情勢の中で、私たちの要求実現の道筋が助言者から問題提起が行われました。

どこの会場も定員一杯となり、椅子を追加する分科会もあり、参加者は地域や職場の実態を報告しながら、運動の交流を行いました。分科会終了後、三宮から本町ま

で、商店街を通りながらにぎやかにパレードしました。

2日目は、神戸文化中ホールで全体会を開催。

「大阪派遣・請負センター」代表で偽装請負を告発し、労働者の働くルール確立のためにたたかう弁護士、村田浩治さんを招いて「人間らしく」をあきらめない！いかそう憲法—憲法と労働法から見た働くことと生活すること」と題するお話をさせていただきました。数字だけでは見えない「派遣切り」の実態を映像を映しながら報告。「働くことと生活は切り離せない。労働基準法の最低労働基準は最低生活基準。不況で、時短は世論から消え、過労自殺が増加している。豊かさとは何かという議論を進めていくことが必要だ」とお話されました。



事務局長のつぶやき

事務局長の橋本です。
事務局長3期目になりました。
昨年はバタバタして、結局二
ユース発行ができませんでし
た。心機一転、定期発行に向
けて努力したいと思えます。
民主党政権になり、私たちの
くらしがどう変わるかまだよく
わかりませんが、誰もが元気に
いきいきと働き続けることがで
きる職場をみんなで作ってい
きましょう。

